

## 日本音楽表現学会 2020 年度総会特集

## 目 次

【巻頭言】ステイ・イン・バランス Stay in Balance ～「新しい生活様式」における日本音楽表現学会の方向性～	小西 潤子	2
2020 年度総会報告		3
【随想】オンライン総会に臨んで～学会の新たな日常となりうるのか？～	小野 亮祐	12
役員任期を終えて		13
4 年間の任期を終えて	2016-19 年度会長 後藤 丹	
任期を終えて	2016-19 年度副会長 加藤富美子	
日本音楽表現学会の活動を振り返って	2018 年度事務局長・2019 年度事務局 舟橋三十子	
任期を終えて	016-17 年度財務担当・2018-19 年度財務局長 海津 幸子	
理事を終えて	2016-19 年度総務担当 安藤 珠希	
新入会員紹介		15
日本音楽表現学会後援コンサート等情報		16
会員による新刊・CD 等リリース		16
事務局からの重要なお知らせとお願い		17
日本音楽表現学会第 19 回 (天翔るペガサス) 大会のご案内		20
2020 年度役員・委員等一覧		20
編集後記		20

## 日本音楽表現学会

所在地：〒616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：同上

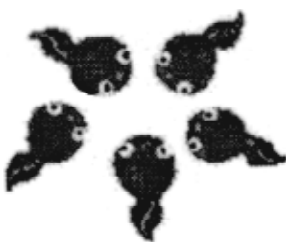
Tel. 075-462-1388

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

http://www.music-expression.sakura.ne.jp/

年会費：5,000 円

振込先：A) 郵便局振込用紙利用 01370 = 6 = 78225 日本音楽表現学会

B) ゆうちょ銀行へ振込 いちさんきゅう 一三九 (139) 店 (当座) 0078225 日本音楽表現学会

## ステイ・イン・バランス Stay in Balance

### ～「新しい生活様式」における日本音楽表現学会の方向性～

小西 潤子 (音楽学)

2020年度、日本音楽表現学会会長を拝命しました。浅学非才の身ではございますが、世界中の誰もが予想できなかったコロナ禍の難関を突破し音楽表現の未来を切り開くために、皆様のお力添えをいただきながら鋭意努力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

さて、特別措置法に基づく緊急事態宣言が全都道府県に拡大された4月16日から、その解除に至った5月25日までは40日。それに先立つ4月7日の東京都、大阪府など7都府県への発出を加えても49日。さらに1月6日、厚生労働省が武漢市で発生した原因不明肺炎について報道発表してから7月初めまで数えても、たった6か月。将来、子どもたちが6か月という数字だけを聞いても、私たちのさまざまな思いは伝わらないでしょう。戦争、大震災、激甚災害を教訓としてきたように、パンデミックと音楽表現活動の推移を記録し、記憶にとどめておく必要性を感じます。

いくつかの例を思いつくまにあげると、2月半ば大阪のライブハウスでクラスター発生、2月26日政府が2週間の大規模イベントの中止や延期を要請。一部のアーティストが無料動画配信でファンを勇気づける一方、音響や照明などライブに関わる技術者が働く場を失っていきました。3月半ば、「震央」と化すイタリアで、日本人ソプラノ歌手と劇場歌手との窓越しのデュエットが一瞬希望をもたらしたところ、3月末、岐阜県のアマチュア合唱団でクラスター発生。ついで、オランダのアムステルダム混声合唱団で、大規模な集団感染。日本の音楽大学等では、対面での実技対策に打つ手を持たず、早いところでは4月からオンライン授業を導入しました。

4月30日日本音楽表現学会「ONLINE音楽表現COVID-19緊急対策」チャット<sup>注)</sup>を設置。会員からは、オンラインでの実技指導の難しさ、学生のネット環境に加えて楽器や練習場確保の問題、また学校教育現場では小学校再開後、「算数・国語などの学習を」という声があがるなど、厳しい現状がチャットされました。その後は、5月半ばまでに対策を講じて学生に練習室貸し出し始めた大学、6月からの実技指導再開に伴い飛沫防止用パーテーションを導入した大学と、音楽大

学等の動きは、地域の感染状況による時間差や経済格差を伴いました。6月5日、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団が3か月ぶりに収容人数20分の1以下でコンサート再開。そして、6月13日、本年度の日本音楽表現学会総会は、オンライン会議によって無事開催されました。オンライン会議システムは、「ソーシャル・ディスタンス」に適應するツールとして、私たちの日常生活の一部となりました。急激な時代の変化を感じますが、実はアメリカ合衆国アリゾナ州フェニックス大学に最初の「オンライン・キャンパス」が開設されたのは、1989年とのことだったそうです。また、いま子どもたちにも身近になっている動画投稿サイトYouTubeの設立も、2005年だとされます。いずれも、開発から一般への普及までにそれなりの時間がかかったと言えましょう。

動画投稿サイトは、誰もが自らの音楽活動を発信する場を提供し、それに共感する人々の輪が世界に広がりました。受け手がオンデマンドで聴けるのは便利ですが、音楽そのものの発信と受信は1方向的で、その間には時間差があります。それに対して、ライブでは演奏者と聴衆とが同じ時空間で「ミュージッキング」します。ライブを構成する要素の1つが、「息遣い」です。

「ONLINE音楽表現 COVID-19緊急対策」チャットでは、オンライン授業の合唱で「耳を傾けて聴く」「息を合わせる」ことを引き出す工夫によって、達成感や喜びを味わえたという例が紹介されています。現在のオンライン環境では、どうしても音のずれや途切れが生じます。そういった状況で声を合わせるためには、画面の向こう側にいる生身の人間を認識することが重要なのです。ライブで得られる感覚があってこそ、想像力と創造性を働かすことができるというわけです。

「ウィズ・コロナ」時代に音楽表現の未来を切り開くためには、バランスを保つこと、すなわちステイ・イン・バランスが求められると思います。人の声に耳を傾けて聴くという原点を大切にしながら、みんなの声がバランスよく響くような学会でありつづけることを願い、私自身も日々精進していきたいと思っています。

注) 会員の皆さんは、次のリンクから入れます。

<https://www.chatwork.com/g/8lzii9gpd7qx2>

# 日本音楽表現学会 2020 年度総会報告

はじめに：

第 18 回「ペガサス」大会は 2020 年 6 月 13 日（土）～ 14 日（日）に新島学園短期大学で開催が予定されておりました。しかし、2019 年 12 月に中国で発生した新型コロナがパンデミックとなって広がりました。日本でも「緊急事態宣言」が発動されるなど様々な集会在不可能になりました。このような状況の中、本学会では 4 月 26 日付の文書でお知らせしたように、大会を「変則的」な形態で開催することとなりました。具体的にはオープニング、基調講演、レクチャーコンサートは来年度大会に延期、分科会の研究発表等は『音楽表現学』Vol.18 における「誌上発表」です。

しかしながら「総会」は年に 1 回以上開催することが「会則」で決定されており、数々の議題は検討され、決定されていなければ次年度の学会運営に大きな影響を及ぼします。そこでオンラインを用いて開催することが決定されました。ここではオンライン総会について議事録に基づいて報告します。なお、オンライン総会に至る経緯や方法等については小野事務局長による記事「オンライン総会に臨んで～学会の新たな日常となりうるのか?～」p. 12 をお読みください。

## — . . . . . 日本音楽表現学会 2020 年度総会議事録 . . . . . —

日 時：2020 年 6 月 13 日（土）15:40～16:50

方 法：Web 会議システム（Zoom）

### 0. 出席者数の確認

まず、「日本音楽表現学会会則」第 14 条により、総会成立の要件は正会員（2020 年 5 月 31 日現在 588 名）の 1/5（118 名）以上であることが確認された。

次に小野事務局長より、6 月 10 日までに委任状 227 名分、議決権行使書 19 名分が提出期限までに届いていることが報告され、これらにオンライン出席者 15 名を加えて合計 261 名の出席者をもって総会の成立要件を充足していることが確認された。なお、提出された全ての議決権行使書は全項目「賛成」で、「反対」およびコメントは皆無であったことが報告され、これに基づいて総会を開始することになった。

1. 開会の辞：後藤丹会長より開会の挨拶があり、総会の開催が宣言された。

2. 議長・記録選出：議長に田中宏明会員、記録に河本洋一会員が選出された。

### 3. 報告

#### 1) 2019 年度事業報告（案）について：

小野事務局長より【資料 1】に基づき報告があり、第 4 回理事会の実施が加筆されたのち、承認された。【資料 1】

#### 2019 年度事業報告

第 17 回（かきつばた）大会	2019.06.15-16（土・日）	於：愛知教育大学
理事会	第 1 回 2019.06.16（日）17:00-18:00	於：愛知教育大学
	第 2 回 2019.12.01（日）10:00-17:00	於：京都テルサ
	第 3 回 2020.03.28（土）10:00-16:00	於：京都テルサ+オンライン
	第 4 回 2020.06.12（金）17:30-19:30	於：オンライン
	その他、電子媒体による持ち回り会議	
財務局上半期会計監査	2019.11.28（木）	於：宮城教育大学
財務局下半期会計監査	2020.05.20（水）	於：宮城教育大学
編集委員会	第 1 回 2019.06.02（日）13:00-17:00	於：京都テルサ小会議室
	第 2 回 2019.08.08（木）10:00-17:00	於：京都テルサ第 3 会議室
	その他 電子媒体による持ち回り会議	
選挙管理委員会	第 1 回（日程等）2019.06.16（日）12:00-13:00	於：愛知教育大学
	第 2 回（送付）2020.02.05（水）	於：学会事務局
	第 3 回（開票）2020.03.20（金・祝）	於：学会事務局

『音楽表現学』Vol.17 発行	2019.11.30 (土)	
ニューズレター発行 No.1	2019.07.31 (水)	
No.2	2019.11.30 (土)	
No.3	2020.03.31 (火)	
第18回大会表敬訪問	2019.10.30 (水)	於：新島学園短期大学
ペガサス大会実行委員会 第1回	2019.10.30 (水)	於：新島学園短期大学
第2回	2019.11.26 (火)	於：高崎市総合福祉センター会議室2
第3回	2020.03.27 (金)	於：新島学園短期大学
第4回	2020.05.15 (金)	於：オンライン
第18回ペガサスちらし送付	2020.03.31 (火)	
事務局関係 NLNo.1 送付作業	2019.07.31 (水)	
NLNo.2 送付作業	2019.12.03 (火)	含・『音楽表現学』
NLNo.3 送付作業	2020.03.31 (火)	含・「大会4頁版ちらし」
*後援 12件		

## 2) 2020-21 年度会長・理事選挙結果について

【資料2】

檜下選挙管理委員長から選挙結果について、全ての立候補の方が信任されたとの報告があった。なお、これまで信任に関する基準に関する条項が規定になかったために、今回は従来の選挙の結果を踏まえ、全ての候補者についてこれまでの信任率を上回ることによって信任を有効としたが、今後、規定の整備の必要性があることが報告された。なお、この件については協議本紙 7 (p.10) で議論に引き継いでいる。

### 2020-2021 年度会長・理事選挙結果報告

日本音楽表現学会会長  
後藤 丹 様

2020年3月20日  
2019年度選挙管理委員会  
委員長 檜下 達也 印  
委員 大澤 智恵 印  
" 田邊 健太郎 印

	役職名	候補者氏名	票数	信任の可否
1. 有権者数 600名	会長	小西 潤子	272	○
2. 投票者総数 284名 (47.3%)	理事	小野 亮祐	257	○
3. 有効投票数 282票	理事	上山 典子	252	○
4. 無効票 2票 (消印無効)	理事	澤田 まゆみ	251	○
5. 有効投票数における各候補者の信任票数 右の表の通り。(HPでは削除します。)	理事	杉江 淑子	266	○
6. 信任の可否	理事	寺内 大輔	249	○
今回の最小信任率 87.3% は前回の最小信任率 86.5% を 上回っていることから、全候補者が信任されたものと判断 した。	理事	藤原 嘉文	251	○
	理事	山名 敏之	252	○
	理事	渡会 純一	248	○

## 3) 第17回(かきつばた)大会決算報告(案)について

【資料3】

海津幸子財務局長より【資料3】に基づき報告があり、当日参加者が想定以上に多く、これまでの大会にもまして熱意をもって取り組むことができたとの口頭説明が加えられ、費目名を一部修正の上、原案通り承認された。

### 第17回第17回(かきつばた)大会決算報告

【収入】	費 目	金 額	備 考	予 算
	大会参加費	992,000	学会員：5,000円×165名=825,000円 当日会員一般：3,000円×51名=153,000円 学生：1,000円×14名=14,000円	845,000
	広告・ブース料	230,000		250,000
	『大会要項』販売	1,500	500円×3冊	6,000
	雑収入(誤入金)	0		0
	懇親会費より繰り入れ	23,060		0
	一般会計より補填	58,299		295,376
	合 計	1,309,359		1,395,376

【支出】	費 目	金 額	備 考	予 算
	基調講演講師謝礼	0	講師：伊藤康宏氏（学会員）規程により	0
	対談	0	講師：田中昌司氏（学会員）規程により	0
	学会企画・サロン経費	61,720	講師：岡田加津子氏謝金・交通費・宿泊費	75,000
	オープニング演奏経費	15,000	謝礼	15,000
	学生アルバイトスタッフ謝金	162,000	900円×180時間	162,000
	校舎施設使用料	126,400		126,400
	大会要項等編集・印刷費	474,667		500,000
	大会事業経費	204,966	事務局スタッフ交通費宿泊費、参事前日宿泊費、大会本部経費、役員費など	150,000
	会議費	47,960	理事会・実行委員会・参事昼食代(1日目)他	50,000
	通信郵送費	71,573	大会要項発送費を含む	150,000
	表敬訪問費	122,976	交通費等	122,976
	スタッフポロシャツクリーニング	9,046		30,000
	事務用品費（名札購入を含む）	7,243		3,000
	振込手数料	2,808		3,000
	雑費	3,000	弁当ガラ回収費	8,000
	合計	1,309,359		1,395,376

懇 親 会

【収入】	費 目	金 額	備 考	予 算
	懇親会費	444,000	4,000円×111名	500,000
	合計	444,000		500,000

【支出】	費 目	金 額	備 考	予 算
	飲食代	420,940		500,000
	アトラクション	0	留学生による中国琴の演奏	0
	大会会計へ繰入れ	23,060	大会収入に補填	
	合計	444,000		500,000

4)2019年度会計報告・監査報告(案)について

【資料4】

渡会財務担当理事より【資料4】に基づき報告があった。また、應和恵子監事より2019年度処理が適正に行われており会計報告に問題がないとの監査報告が総会前に書面で提出されたことが報告され、承認された。

2019年度会計報告・監査報告

【収入】	費 目	2019年度決算	2019年度予算	2018年度決算(参考)	
	2019年度会費	5,000円×542名	2,710,000	3,100,000	2,421,000
	学会誌売上	3,000円×10冊	32,672	65,000	62,398
	『論文執筆のしおり』売上	300円×0冊	0	6,000	5,710
	利息		15	20	19
	大会会計から繰り入れ		0	0	0
	雑収入		0	0	18,000
	小 計		2,742,687	3,171,020	2,507,127
	前年度繰越金		2,438,880	2,438,880	3,049,082
	合 計		5,181,567	5,609,900	5,556,209

【支出】	費 目	2019年度決算	2019年度予算	2018年度決算(参考)
『音楽表現学』	印刷費等	774,920	720,000	689,598
	査読謝礼・英文校閲謝礼	28,750	20,000	13,750
ニューズレター19年度名簿(偶数年度発行)	印刷費等	209,590	140,000	84,181
	作成・印刷費	-	-	136,230
『論文執筆のしおり』	印刷費	0	50,000	39,722
	理事会	59,730	60,000	55,156
編集委員会	交通費	395,710	550,000	430,748
	会場費	36,109	30,000	29,113
選挙管理委員会	交通費	292,216	350,000	208,490
	会場費	0	10,000	-
	交通費	6,520	30,000	-
	印刷費	30,410	30,000	-
	通信発送費	57,420	100,000	-
	役員費：発送作業	13,300	50,000	-

デザイン室	事務用品費	156,054	170,000	-
	役務費 (HP 更新・発送等)	102,248	80,000	104,284
事務局費	会議費	2,000	10,000	0
	交通費	2,110	120,000	111,468
	通信・発送費	240,876	290,000	249,079
	事務用品費	52,164	220,000	205,168
	役務費：発送作業	45,900	100,000	95,420
学会基金積立		300,000	300,000	300,000
払込手数料		6,324	6,000	4,968
雑費		0	10,000	0
大会補助費		58,299	295,376	230,874
予備費		0	50,000	0
小計		2,870,650	3,791,376	3,117,329
次年度繰越金		2,310,917	1,818,524	2,438,880
合計		5,181,567	5,609,900	5,556,209

学会基金

【収入】	費目	金額	備考
	前年度繰越金	4,295,820	
	2019年度学会基金	300,000	一般会計から振替
	『音楽表現学のフィールド 1, 2』	33,042	3,000円×10冊 (送料込)
	利息	35	
	合計	4,628,897	

【支出】	費目	金額	備考
	『音楽表現学』バックナンバー電子化	0	
	次期繰越金	4,628,897	
	合計	4,628,897	

\* J-STAGE の論文掲載経費は 2020 年度経費に計上。

以上の通り報告いたします。

2020年5月19日

財務 海津 幸子 印 渡会 純一 印

監査の結果、以上に間違いありません。 2020年5月20日

監査 應和 恵子 印 小川 有紀 印

## 5) 年会費納入状況について

【資料5】

小野事務局長より【資料5】について2017年度からの未納者について、2020年3月31日付けで除名処分を実施することが承認された。(詳細は、4. 協議9に掲載)

### 年会費納入状況 (2020年3月31日現在)

会員数	未納状況
564名 (2020年3月31日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2017,2018,2019年度未納 (11名)</li> <li>・2018,2019年度未納 (37名)</li> <li>・2019年度未納 (62名)</li> </ul>

## 6) 『音楽表現学』電子化について

加藤富美子副会長より『音楽表現学』電子化の進捗状況について報告があった。『音楽表現学』Vol.1 - 16までの原著論文、資料論文、評論論文のうち、執筆者の了解を得た37本がJ-STAGEに登録された。なお、バックナンバーの電子化の手続きがすべて会員により行われたことで、予定していた必要経費が大幅に削減された。

## 7) その他 なし

## 4. 協議

### 1) 2020年度事業計画(案)について

【資料6】

小野事務局長より【資料6】に基づき提案があり、今年度は学会員の名簿発行、『論文執筆のしおり』を発行する年度であること、コロナ禍によって明確な見通しを得られないことについての理解と協力依頼の要請があり、原案どおり承認された。

第 18 回 (ペガサス) 大会	2020.06.13 (土) ～ 07.31 (金) (誌上発表原稿〆切日)
オープニング、サロン、基調講演、レクチャーコンサート、学会企画等	2021 年度にあらためて開催
研究発表分科会	『音楽表現学』Vol.18 にて誌上発表
2020 年度総会	2020.06.13 (土) 15:40-16:50 於：文書・オンライン TV 会議
理事会 2020	第 1 回 2020.06.14 (日) 16:00-17:00 於：オンライン TV 会議
	第 2 回 2020.11 末-12 初旬 於：京都市内
	第 3 回 2021.03 末 於：京都市内
	その他 電子媒体による持ち回り会議
編集委員会	第 1 回 2020.06.06 (土) 10:00-12:00 於：オンライン TV 会議
	第 2 回 2020.08.02 (日) 於：オンライン TV 会議
	その他 電子媒体による持ち回り会議
ニュースレター発行 No.1	2020.07.31 (金)
	No.2 2020.11.30 (月)
	No.3 2021.03.31 (水)
『音楽表現学』Vol.18 発行	2020.11.30 (月)
『音楽表現論文執筆のしおり』	2020.11.30 (月)
『会員名簿 (2020) 年度版』発行	2020.11.30 (月)
*後援 20 件 (昨年度 12 件)	

## 2) 第 18 回 (ペガサス・変則的) 大会予算 (案) について

【資料 7】

渡会財務局長より「当初予算」と「変則開催予算」の 2 種を立てていることの説明の上で、【資料 7】に基づき提案がなされ、承認された。

## ペガサス大会予算

【収入】	費 目	変則開催予算(円)	当初予算 (円)	備 考	かきつばた 決算
	大会参加費	203,000	1,085,000	変則：誌上発表者：3,500 円×58 名 =203,000 円 当初：学会員：5,000 円×190 名= 950,000 円 当日会員一般： 3,000 円×35 名= 105,000 円 学生会員：2,000 円×15 名= 30,000 円	992,000
	広告料・展示ブース料	212,500	250,000	変則：当初案の 85% (印刷部数減)	230,000
	『大会要項』販売	0	0	1 部 500 円	6,000
	雑収入	0	0		0
	小計	415,500	1,335,000		1,228,000
	一般会計より補填	295,500	0	かきつばた余剰金 23,060 円を含む	81,359
	合計	711,000	1,335,000		1,309,359

【支出】	費 目	変則開催予算(円)	当初予算 (円)	備 考	かきつばた 決算
	基調講演講師謝礼	0	0	講師：神部氏 (学会員) 規定により	0
	レクチャーコンサート謝礼	0	0		61,720
	オープニング演奏経費	0	50,000	楽器運搬他 30,000、演奏者謝礼 20,000	15,000
	学生アルバイトスタッフ謝金	0	200,000	時給 840@×240h 15 人×8H×2 日	162,000
	校舎施設使用料	0	100,000		126,400
	機器技術者謝礼	0	0		0
	著作権料	0	8,000		0
	『大会要項』等編集・印刷費	500,000	500,000	含・チラシ、校正作業等	474,667
	大会事業経費	5,000	200,000	事務局スタッフ宿泊費、交通費、 参事前日宿泊費、大会本部経費、 役員費等	204,966

会議費	15,000	65,000	理事会・実行委員会・参事昼食代 (1日目) 50,000 実行委員会会場費 1,880 表敬訪問時昼食 3,360 補給用水分 1,200×4 4,800	47,960
通信発送費	71,000	70,000	大会要項等発送 オープニング用楽譜発送、等	71,573
交通費	110,000	110,000	表敬訪問費 96,554 実行委員会 2,000×4 8,000	122,976
スタッフポロシャツクリーニング	0	13,000		9,046
事務用品費	3,000	10,000	ノート代 300	7,243
振込手数料	2,000	4,000		2,808
雑費	5,000	5,000		3,000
小計	711,000	1,335,000		1,309,359
一般会計へ繰越	0	0		0
合計	711,000	1,335,000		1,309,359

### 3) 2020年度予算(案)について

【資料8】

渡会財務担当理事より【資料8】に基づき提案があった。主な提案を以下に記す。

- ・繰越金：年々減少する繰越金をいかに増加傾向に転じさせるか。これは健全な学会運営にとっておおきな課題である。しかし、会議の開催方法など先行きが不透明な2020年度には、従来の実績を踏まえつつ、2020年度予算を編成した。さしあたり未納者からの納入を促進することで乗り切りたい。
- ・年会費納入方法の合理化のために、今年度から「ゆうちょダイレクト」入金できる方法も導入した。ネットやコンビニ等を利用して、銀行や郵便局に行かなくても納入が可能である。年度当初の速やかな納入をお願いしたい。
- ・年会費納入方法：
  - A) 郵便局からの振込(記号一番号) 01370 = 6 = 78225 加入者名：日本音楽表現学会  
(振込用紙利用)
  - B) 他行等からの振込(店名一口座番号) 店名 <sup>いちざんきゅう</sup>一三九(139)店 預金種目：当座 口座番号：0078225
- ・『学会員名簿2020年度版』の発行：夏以降各人に連絡をしますのでご協力をお願いしたい。
- ・『音楽表現論文執筆のしおり2020年度版』の発行：J-STAGE 登載との関連で、発行を1年遅らせた。
- ・長年の懸案であった『音楽表現学』のJ-STAGEへの論文掲載手続きを『学会基金』に反映させている。

### 2020年度予算

【収入】	費目	金額	2019年度決算	備考
	2020年度会費	3,000,000	2,710,000	5000円×600名
	学会誌売上	65,000	32,672	大学図書館等
	論文執筆のしおり売上	6,000	0	増刷分売上300円×20部
	利息	15	15	
	大会会計から繰り入れ	0	0	
	雑収入	0	0	
	小計	3,071,015	2,742,687	
	前年度繰越金	2,310,917	2,438,880	
	合計	5,381,932	5,181,567	
【支出】	費目	金額	2019年度決算	備考
	『音楽表現学』Vol.18	印刷費等	800,000	774,920
	査読謝礼・英文題目校閲	30,000	28,750	
	ニューズレター No.1～No.3	印刷費等	150,000	209,590
	名簿(偶数年度発行)	作成・印刷費	150,000	- 役務費を含む
	『論文執筆のしおり』	印刷費	50,000	0
	理事会	会場費	60,000	59,730
		交通費	500,000	395,710
	編集委員会	会場費	40,000	36,109
		交通費	300,000	292,216
	デザイン室	事務用品費	170,000	156,054
		役務費：発送作業	110,000	102,248
				トナー、インク、用紙 校正、HP更新など



事務局費	会場費	5,000	2,000	
	交通費	50,000	2,110	
	通信発送費	250,000	240,876	
	事務用品費	80,000	52,164	封筒、用紙等
	役務費：発送作業	80,000	45,900	各種文書作成
学会基金積立		300,000	300,000	
払込手数料		7,000	6,324	
雑費		10,000	0	
大会補助		295,500	58,299	
予備費		10,000	0	
小計		3,447,500	2,870,650	
次年度繰越金		1,934,432	2,310,917	
合計		5,381,932	5,181,567	

学会基金

【収入】	費目	金額	備考	19年度決算
	前年度繰越金	4,628,897		4,295,820
	2020年度学会基金	300,000	一般会計から（学会基金積立）	300,000
	『音楽表現学のフィールド1,2』売上	30,000	売り上げ	33,042
	利息	30		35
	合計	4,958,927		4,628,897

【支出】	費目	金額	備考	19年度決算
	『音楽表現学』バックナンバー電子化	100,000	J-STAGE 登載役務費	0
	次年度繰越金	4,858,927		4,628,897
	合計	4,958,927		4,628,897

4) 「会則」改正(案)について

【資料9】

安藤総務担当理事より【資料9】に基づき、現状に即した内容にするために一部文言の修正に関する提案があり、以下の通り承認された。

『日本音楽表現学会 会則』

改正	現行
第6条 入会手続きおよび承認は、次の通りとする。	第6条 入会手続きおよび入会の承認は、次の通りとする。
(1) 正会員および学生会員として入会を希望する者は、「 <u>入会申込書</u> 」を正会員1名の推薦を受けて事務局に提出し、理事会の承認を得る。	(1) 正会員および学生会員として入会を希望する者は、正会員1名以上の推薦を受けて理事会に申請し、承認を受ける。
第15条	第15条
4 理事会は、本会則第3条に定める事業について責任を負い、次にあげる諸事項の任にあたる。	4 理事会は、本会則第3条に定める事業について責任を負い、次にあげる諸事項の任にあたる。
(1) 学会の運営、広報および各種文書の作成	5 理事会は、本会則第3条に定める事業を行うために編集委員会、その他必要な組織等をおくことができる。組織の規程は、別に定める。
(2) 事務局の管理・運営	(1) 学会の運営、広報および各種文書の作成
(3) 大会の企画運営、および例会の連絡・調整	(2) 事務局の管理・運営
(4) 予算案・決算報告書の作成	(3) 大会の企画運営、および例会の連絡・調整
(5) 演奏会などの共催・後援についての採否	(4) 予算案・決算報告書の作成
(6) その他、本会の目的に照らして必要と認められる事業	(5) 演奏会などの共催・後援についての採否
5 理事会は、本会則第3条に定める事業を行うために必要な組織等をおくことができる。	(6) その他、本会の目的に照らして必要と認められる事業
(1) 会長諮問会議	
(2) 参与	
(3) 参事	
(4) デザイン室	
(5) 選挙管理委員会	
(6) 編集委員会	
(7) 著作権ワーキンググループ	

(8) 大会実行委員会 (9) 大会プログラム作成ワーキンググループ (10) 学会論文集編集委員会 附則 9. 2019年6月15日改正 10. 2020年6月13日改正	附則 9. 2019年6月15日改正
--	--------------------

- 5) 「日本音楽表現学会『音楽表現学』投稿規定」の改正について (案) 【資料 10】  
 安藤総務担当理事より【資料 10】に基づき提案があり、異議申し立てに関する記述の追加と掲載論文の学会所属年数を著作権の年数 J-STAGE との関係で短縮した旨説明があり、原案どおり承認された。

『音楽表現学投稿規定』

改正	現行
6. 投稿原稿の採否について (4) 投稿者は、査読結果通知書送付日より2週間以内に編集委員会に書面にて異議申し立てをすることができる。 8. 学会誌掲載の論文等の著作権は1年間学会に属する。 附則 12. 2019年6月15日改正 13. 2020年6月13日改正	6. 投稿原稿の採否について (新規) 8. 学会誌掲載の論文等の著作権は3年間学会に属する。 附則 12. 2019年6月15日改正

- 6) 「著作権について」記事の改正について 【資料 11】  
 加藤副会長より【資料 11】に基づき、J-STAGE 登録にあたって、学会に属する著作権の期間を「3年」から「1年」に短縮すると共に、不必要となった文言を削除するという提案があり、原案どおり承認された。

『著作権について』

改正	現行
【運用方針】 学会が刊行する著作物の著作権については、発行後1年間は学会に属するものとする。 — (中略) — また、著作権が学会に属する1年間は、論文全体を機関リポジトリ等で公開することは原則として認めない。 削除 削除	【運用方針】 学会が刊行する著作物の著作権については、発行後3年間は学会に属するものとする。2009年6月13日以降発行される著作物について適用する。 — (中略) — また、著作権が学会に属する3年間は、論文全体を機関リポジトリ等で公開することは原則として認めない。 【著作権が学会に帰属する期間等についての補足説明】 削除 【問題の背景と今後の課題について】 削除

- 7) 「選挙規定」の改正について 【資料 12】  
 澤田総務担当理事より【資料 12】に基づき提案があり、信任投票の必要投票数に関する基準を「選挙規定」に明記するという改正が提案され、投票総数の1/2を超える場合に信任とすることが承認された。

「選挙規定」

改正	現行
5. 候補者が定数と同数の場合には信任投票とし、投票用紙に記載された候補者名簿の信任する被選挙人の氏名の上に○印を記入するものとする。 (2) 投票総数の1/2を超える○の記入があるときに、候補者は信任を得たものとみなす。 附則 4. 2019年6月15日改正 5. 2020年6月13日改正	5. 候補者が定数と同数の場合には信任投票とし、投票用紙に記載された候補者名簿の信任する被選挙人の氏名の上に○印を記入するものとする。 (2) 新規 附則 4. 2019年6月15日改正

## 8) 2020-2021 各種委員・組織構成員の委嘱について (案)

【資料 13】

項目名を「各種委員・各種組織の構成員の委嘱について」に変更の上、小野事務局長からの原案通り承認された。

1) 会計監事の委嘱について	小川 有紀 (再任)、海津 幸子 (新規)
2) 会長諮問会議メンバーの委嘱について	安藤 政輝 (継続)、佐々木正利 (継続)、後藤 丹 (新規)
3) D室長の委嘱について	奥 忍 (再任)
4) 参与の委嘱について	中村 隆夫 (新規)、安田 香 (新規) ← 参事から転任

## 9) 年会費滞納による除名処分について

【資料 14】

小野事務局長から「会則第8条 (2)」に基づき、以下の11名の会員の除名を行うことが提案され、承認された。

### 2020 年度除名者

阿久津 巴、 照屋 夏樹、	亢 若桐、 狭間 由香、	小坂 有紀、 逸見 学伸、	小波津美奈子、 山口 茉莉子、	齊藤 祐、 丹羽 亜希子	高橋依璃佳、
------------------	-----------------	------------------	--------------------	-----------------	--------

## 10) 第19回大会開催期日と候補地と愛称について

【資料 15】

吉田実行委員長より、改めて新島学園短期大学で、2021年6月19日(土)・20日(日)、愛称は「<sup>あまがけ</sup>天翔るペガサス大会」で再スタートすることが承認された。

期日：2021年6月19日(土)・20日(日)
会場：新島学園短期大学
愛称：「天翔るペガサス大会」
実行委員会 委員長：吉田 秀文 (群馬大学)
事務局長：澤田まゆみ (新島学園短期大学)
委員：瓜生 郷子 (新島学園短期大学) 金山茉莉花 (奈良保育学院)
久保田和子 (新島学園短期大学) 渋川ナタリ (東京藝術大学)
高木麻衣子 (東京福祉大学) 原 久美子 (東京福祉大学)
林 智草 (育英短期大学)

## 11) その他

### 5. 議長・記録解任

後藤会長より順調な議事進行について議長と記録に感謝が述べられた。

### 6. 閉会の辞

後藤会長より任期満了に伴う挨拶があり、新会長の小西潤子新会長から着任の挨拶があり、その後、16:43に後藤会長より総会の終了が宣言された。



## オンライン総会に臨んで ～学会の新たな日常となりうるのか？～

小野 亮祐 (事務局長)

昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大に鑑みて、様々な学会や催し物が次々と中止・延期、もしくはオンライン開催となりつつある。日本音楽表現学会ペガサス大会も例外ではなく、変則開催として催し物・行事内容に応じて開催方法を柔軟に変更・延期している。例えば口頭発表は、研究のプライオリティを第一に紙上発表に変更された。その公刊は11月末の予定だから、いまだペガサス大会は続いているということになる。いや、質疑応答があることを考えれば、しばらく未来にわたって続くのかもしれない。熟慮・熟議にこそ醍醐味のある研究発表はそうあってしかるべきだともいえるが、総会はそのようなわけにはいかない。学会の年度予算や行事計画は、すべて総会での承認の議を経てようやく行使ができる。つまり、会員による熟慮・熟議は必要である一方で、例年のタイミングで開催し全ての議題を承認議決しなければ学会が運営できないのだ。

かくして総会は予定通りの日時にて、Zoomを利用したオンラインの開催となった。しかしそうなったからといって、そのまま単純にZoomに移行するわけにはいかない。現在のオンライン会議システムでは、何人でも参加できるわけではない。本学会は数ある学会の中では小ぶりな方だが、それでも600名あまりの会員を抱えるのだから「みなさん、寄っといで」とはできない。そういうわけで、オンラインの参加人数はごく限定することで、システム上の制限をクリアし、その他システム障害やのちにも述べる突発的な不具合などを回避して、総会の運営ひいては学会の運営に支障が出ない方法を選んだのだった。

このような方法を取ることによって、すべての会員の議決に関わる（「委任する」という意思も含め）意思の確認がいつも以上に重要になった。しかし皮肉にも、オンラインの方法を取るためには、意思確認のために議案書と委任状と議決行使書の郵送というアナログな方法に頼らざるを得ないという現象も生じた。デジタル優勢になりつつある世の中であるが、まだまだ不備（不具合）が多いことも否定できず、アナログの力も借りるしかないのだ。委任状などの締め切りも例年は受付をぎりぎりまでしているのだが、

今回は前もっての検討が必要な意見が議決行使書に出てくることを想定して少し早めに設定した。そこから逆算すると、議案書はいつもよりかなり早くに仕上げなければならない。通常でも当日ギリギリまでかけて半ば徹夜で仕上げるようなこともある議案書だ。短くなった締め切りに、編集と特に財務諸表の作成には相当の労力がかかることとなった。

さて、実際行われたオンラインの総会については、準備も周到であったこともあって、比較的スムーズに進んだ。何より、この方式での総会の開催に対して会員の理解が得られていたことも、その見えざる理由だったと言えよう。会員全体から見れば数少ない参加者も、それぞれに本務等でオンラインの授業や会議を行うことが増えていることもあり、Zoomの操作自体には慣れてきている。とはいえ、それでも原因不明のシステムトラブルはつきもので、念には念をとお互いに本番と同じ環境で事前に接続テストを行ったら、案の定不具合が生じた。不具合の解決には電話を使うという、これまた昔ながらのアナログな方法となった。これがもし、遠隔参加が数百名規模で遠く離れた先で発生した不具合をリアルタイムで何件も解決しながら進行するなどとなれば、現状では至難の業に思えて仕方がない。果たしてこれが学会の日常となりうるのだろうか？というのが正直な印象だ。

今後の状況がどうなるかはまだ誰もわからない。来年、再来年、数年後の自分がこれを読み返した時にどう思っていることだろうか。あまり考えたくはないが、もしこれが種々の試行を伴いながら継続されて一定の蓄積の上に通常になっていくのなら、今回はいわば新しい日常の第一歩だったともいえよう。また時限付きの例外だったのなら、後から「こんなこともあったよね」と笑い話のネタにでもなるのだろう。しかし、集って楽しい、ライブ感みなぎるこの学会にふさわしいのは、やはり会場に集まって「こんなこともあったよね」と音楽と共に笑い飛ばすことかなと思う。こう考える自分はwithコロナの新しい時代についていけないのだろうか。

---

## 役員任期を終えて

---

4年間ありがとうございました。

後藤 丹

今年の6月30日で会長の任期満了となりました。皆様に感謝いたします。高崎で直接ご挨拶できなかったのが少し心残りでしたが、こういう時期なので仕方ありません。それにしても大変な時に小西新会長に引き継ぐこととなります。よろしくお願いします。

日本音楽表現学会も近年ますます規模が大きくなり、会則等もほぼ完備して整然と運営されていることは喜ばしいことです。

ただ時折、私が懐かしく想起するのは、十数年前の学会が創設されたばかりの頃のことです。まだ会員数も少なく、みんな自分たちの学会ができた嬉しさに溢れていました、いわば突然、全国に音楽仲間が増えたようなもので、実に和気藹々と動いていました。大会になると、わくわくして全国から集まったものです。

こんなことも思い出されます。総会で会計監査報告の時に担当の方がまだ会場に着いていないことがわかりました。すると、驚いたことに、監査の際たまたま同じ建物の隣室にいたという人が会場から呼び出され、「隣の部屋でちゃんと終了したようでした」と証言し、笑いと拍手のうちに承認されたのです。こういうおおらかさが素晴らしい。

この学会は音楽の「生もの」を扱います。あまり「普通の立派な学会」になってほしくないというのが私の密かな希いです。

今年はともかく、まずは可能な限り大会に顔を出すようにしようではありませんか。会員同士で言葉を交わすことを基本としましょう。

### 任期を終えて

加藤富美子

2016年度より2期4年間、理事をつとめさせていただきました。理事会に関わらせていただいたおかげで知ることができた、この学会の魅力の秘密をお伝えすることで、お礼にかえさせていただきます。

それは、会員お一人おひとりの顔が見えている学

会だということです。音楽表現を表現者の立場から研究していく学会。この、音楽の研究にとって根幹となるべき学会が、飛躍的な発展を見せているのは、もちろん個々の会員の研究内容の質の高さです。しかし、そこには、「顔が見えている学会」という会員と会員とのつながりが大きく働き、それが学会活動を動かす機軸の働きをしていることを、理事会を通じて知ることができました。

理事会のチャットで日々繰り広げられている濃密な議論、大会運営にあたっての周到な準備などが、すべて個々の会員のお顔を思い浮かべながら行われていました。また、入退会のチャットでは毎日のように新入会員のお申し込みが届けられることに、とても驚きました。きっと、会員の方々が本学会の学会活動の魅力をご自身の研究を通して周りの方々に伝えてくださっていることが大きいのでしょう。ここにも、人から人へとつながっていく本学会の素晴らしさを感じました。

理事会を通して知ることができたことを、これからは生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

### 日本音楽表現学会の活動を振り返って

舟橋三十子

私がこの日本音楽表現学会に入会したのは、数年前に遡ります。以前は、作曲を専攻していた学生、卒業生が入る「日本現代音楽協会」、「日本作曲家協議会」の会員でした。それが、当時「王道」と言われていたからです。

しかしこれらは、学会と言うよりも、現代音楽の発表会的なものでした。そこで、幅広い視点から音楽を捉えるという、作曲だけでなく関心を満たしてくれる学会はないかと探していた時に出会ったのが、日本音楽表現学会だったのです。

この学会の大会で、一番印象に残っているのは、発表者や発言者への熱意溢れる討論、質問です。他分野の研究者、大学院生等からの深層的確な意見には、傾聴すべき考えが多く、好奇心をそそられました。

私が入会時に惹かれた理由のひとつは、毎年日本各

地で大会が開催されるということです。最初は、軽い気持ちで大会に参加して、分科会の司会をお引き受けし、新しい知識もかなり得ることもでき、有意義な時間を過ごすことができました。それが、いつの間にか理事になり、1年間だけですが、事務局長になり、白熱する議論に魂をのっとられたような気持ちになっていきました。

ともあれ、毎年、ここまで立派に学会を運営なさっている皆様のご努力に対して、改めて敬意を表するとともに、素晴らしい学会としての存在意義を、益々深めていってほしいと思います。

### 任期を終えて

海津 幸子

一番の魅力は研究発表の充実度—熱意溢れる発表に活発な質疑応答。そして二番目の魅力は、和やかで楽しい懇親会。たまたま開催校で演奏で参加させていただいたのをきっかけに、毎年、各地の大会に心躍らせて出向いていきました。

表現することで、そして研究することで、心通わせることができる大会への参加は、私の年中行事となっていました。今年度は非対面での開催。イレギュラーな形となっても熱気を感じて驚いていますが、これは来年度の大会でより熱くなることでしょう。

子供の頃からお小遣い帳や家計簿をつけたことのないような不慣れた財務でしたが、理事会メンバーをはじめ、皆様のお陰で無事に任期を終えることができました。活発に意見を交換し合い、物事を進展させる理事会は、会員の熱心な研究や活動があつてこそ。すべての会員に心より感謝いたします。

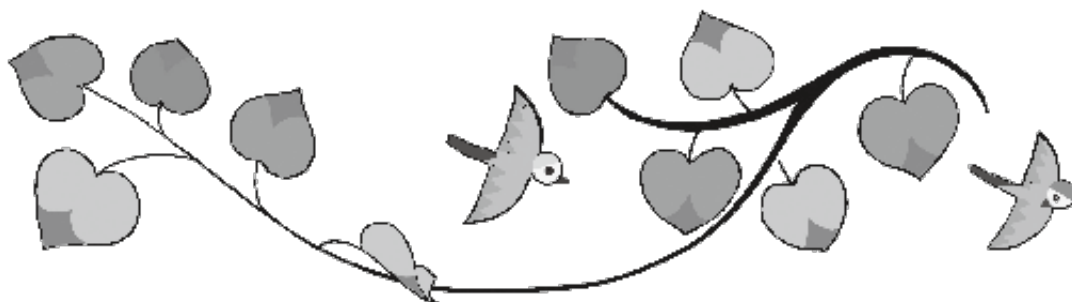
これからも大会には可能な限り参加し、皆様からおおいにインスパイアされて、心から音楽をし、それを言語化してより多くの人に伝えられるよう、学んでいきたいと思っています。

### 理事を終えて

安藤 珠希

新型コロナウイルス感染症が一時はかなり収束したように見えてきましたが、まだ終息の目途は立っていないどころかさるなる拡大に向かっているようで、それに加えて「令和2年7月豪雨」が追い打ちをかけました。大きな災害があると、音楽は最初にダメージを受ける分野のひとつです。フリーランスで演奏・教授活動をしている方も多いと思いますが、今回はこれまでにない非常に厳しい状態が続いています。しかし、このような時こそ音楽の持つ力を信じたいと思います。また、慣れないリモートでの会議・授業・レッスンに戸惑われた方も多いと思いますが、インターネット経由と生の音楽との違いを再認識されたのではないのでしょうか。私は「無観客演奏」を体験したのですが、音楽は、演奏する人・聴く人が同じ空間に存在することで成り立っていることを改めて感じました。今年の大会は、残念ながら感染拡大防止の観点から対面での開催ができませんでしたが、来年は例年のような生の音楽と活発な質疑応答に満ちた年次大会が開催されることを願っております。

4年間、微力ながら総務担当理事を務めさせていただきました。事務局・デザイン室・実行委員会をはじめ、多くの方々のお力により学会や年次大会が運営され、成り立っていることを改めて体感した期間でした。改めて御礼申し上げます。



---

## 新入会員紹介

---

個人情報につき削除しています。



---

## 日本音楽表現学会後援コンサート等情報

---

佐野 晴美さん

京ことばコンサート ～こんな時こそ京ことば～

日 時：2020年9月12日(土) 16:00 開場 16:30 開演

会 場：「歴史・文化・交流の家」長谷川家住宅 (この頁下部に写真)

〒601-8024 京都市南区東九条東札の辻町5

料 金：2,500円

演奏者名：佐野 晴美

曲 目：嵐野英彦作曲

詩・白川淑による《京ことばによる歌曲集》より〈嵯峨野路〉〈十六夜〉〈月の暈〉、等

詩・島田陽子《大阪ことば遊びうた》、等

安藤 政輝さん

宮城道雄全作品連続演奏会20 —ネット公開版—

去る4月18日に予定しておりました「宮城道雄全作品連続演奏会20」が新型コロナウイルス感染症拡大のために開催不能となり、次善の策として考えた「無観客開催をネットで配信」も緊急事態宣言発出のためできなくなってしまいました。

この度、「自宅収録のネット公開」を一般公開にしましたのでお知らせします。下記ホームページをどうぞご覧ください。<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~andomasateru/renzoku.html#youtube>

---

## 日本音楽表現学会新刊案内

---

後藤 丹さん

無伴奏混声合唱のための《木にたずねよ》

発 行：2020年5月15日

出版社：全音楽譜出版社

ISBN：全 978-4-11-718902-5 [本体 1,500円 + 税]



【写真】長谷川家住宅 外観・外構 <http://hasegawake.net/house/gaikan/>



## 事務局からの重要なお知らせとお願い

### 1. 『学会員名簿 2020 年度版』発行

今年度は『学会員名簿』の発行年です。名簿は各種の学会活動の基礎となる重要な資料です。夏以降に各人に連絡をしますので、正確で速やかなご返信をよろしくお願いいたします。

### 2. 年会費の納入について

#### (1) 年会費の納入期間：まだ納入されていない方は、速やかにお手続きをお願いします。

学会は皆様方の年会費で運営されています。期限内に納入がなければ、発表申し込みや原稿投稿ができません。また、3年滞納された方は、総会での審議事項「年会費滞納による除名対象者」になります。無意識滞納にご注意いただきますと同時に、対策の一助として、納入後はただちに、「振替払込請求書兼受領証」（ATMご利用の場合は「ご利用明細票」）に、納入年度をメモの上、保存されることをお勧めいたします。年会費をまだ納入されていない方はお急ぎください。

#### (2) 振込方法：年会費納入に新しい方法を導入！

- ・年会費納入方法の合理化のために、今年度から「ゆうちょダイレクト等ネットバンキング」に入金できる方法も導入しました。ネットやコンビニ等を利用して、銀行や郵便局に行かなくても納入が可能です。年度当初の速やかな納入をお願いします。
- ・年会費納入方法：

##### A) 郵便局からの振込（振込用紙利用）

（記号一番号）01370 = 6 = 78225

加入者名：日本音楽表現学会

##### B) 他行等からの振込（店名一口座番号）

店名 いちさんきゅう 一三九（139）店

預金種目：当座

口座番号：0078225

なお、2020 年度未納の方には、NL2020-No.1 にゆうちょ銀行青色の「払込取扱票」を同封しますので、ご自分の納入状況をご確認下さい。

#### (3) 領収書・請求書の発行：必要な方は事務局へ問い合わせを

領収書は原則として発行いたしません。「振替払込請求書兼受領証」（ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」）を領収書として保管ください。

大学研究費での引き落とし等、請求書・領収書の

必要な方は事務局へお問い合わせください。財務局へ取次ぎ、発行手続きをいたします。

#### (4) 年会費減免措置について：自然災害等の被災による減免措置の制度

学会では、地震や洪水等、自然災害の被災によって年会費納入が困難な会員の年会費を減免する制度があります。必要な方は、HPから以下の書式をダウンロードし、申請ください。理事会に諮り、減免手続きをいたします。

#### 「年会費減免願」書式（20170321 版）：

被災による年会費減免願	
	年 月 日
日本音楽表現学会 会長殿	
このたび、(〇〇地震)被災により、(〇〇〇〇年度)年会費の納入免除をお願いいたしたく、減免願を提出いたします。	
なお、(□□□□)年度分までの会費は納入済みですのでご確認をお願いいたします。	
氏 名：	_____
現在の連絡先：	_____
連絡先電話番号：	_____
e-mail アドレス：	_____
減免申請の理由（具体的に納付困難の理由をお記しください。）	

### 3. 住所等、会員情報の変更：HPフォームにて速やかにお知らせを

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>

学会からの送付物は事務局本部で理事とスタッフが手作業で、お届けいただいた連絡先にお送りしています。しかしながら、転居先不明等で返却される封筒が少なからず存在します。そのたびに所属先や、時には入会時の「推薦者」に問い合わせで再送しています。このような手間と経費を削減するために、みなさまのご協力を切にお願い申し上げます。

#### 4. 学会会員のサポート制度

##### (1) 機関誌『音楽表現学』への投稿

- ・原稿の投稿には、会員資格と当該年度までの会費を完納していることが必要条件です。手続きには2～3週間かかります。その点ご銘記ください。
- ・『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記してください。

投稿締切は毎年5月15日です。

##### (2) 大会での発表

本学会ならでの生の音楽表現を含めた研究発表の機会をご利用ください。応募締切は、毎年2月15日です。会員数が600名近いために、エントリー締め切り間際のリマインドメールは送られません。申込期日を銘記してください。

#### 5. 会員への情報公開

##### (1) ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。

- ・研究ノート、随想など：図表等を含めて刷り上がり1頁以内。

##### (2) コンサート等の後援・協賛

本学会HPのリンクから〔コンサート等後援／協賛申請フォーム〕にて事務局へ申請してください。確認後、事務局より「後援受理書」をお送りしますので、チラシやプログラムに学会名を掲載ください。また、HP及びニュースレターにも案内を掲載させていただきます。

[コンサート等後援／協賛申請フォーム]

各それぞれ1行で39字以内を原則とする。

(文例) 以下のコンサートの後援をお願いします。 会員氏名： _____ 演奏会タイトル： _____ 日 時： _____ 会 場： _____ 料 金： _____ 出演者(会員)： _____ 主な曲目： _____ 問い合わせ先：ホール電話番号 _____ *個人の携帯番号・メールアドレスはセキュリティ上、 本会としてはHPには記載いたしません。
--

##### (3) 新刊案内・CD/DVD リリース

著者名(会員)、書名(ISBN)、出版社、価格(税込)、購入方法なども含めてお知らせください。ニュー

ズレターとHPに掲載します。

##### (4) その他：隣接領域の研究会等情報などもお寄せください。

投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛をお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

#### 6. 学会発刊の書籍の販売について

##### (1) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法：

メール等で事務局までお申し込みください。

Vol.	会員価格(1部)	一般価格(1部)
1～3	2,500円+送料	3,000円+送料
4～14	3,000円+送料	3,500円+送料
15以降	2,500円+送料	3,000円+送料

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。

##### (2) 『音楽表現学のフィールド2』好評発売中

会員価格3,000円(税込・送料込)にて購入いただけます。

購入申込：メールで事務局までお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

送金：『フィールド2』に専用の払込取扱票を同封します。

加入者：日本音楽表現学会

口 座：01370-6-78225

[購入申込書]

『音楽表現学のフィールド2』の購入を申し込みます。 氏 名： _____ 部 数： _____ 送 付 先： _____ 連絡用 E-mail： _____
--

#### 7. 入会手続きについて

- ・入会申し込みは随時受け付けます。入会申込書は以下のフォーム、またはHPからフォームをダウンロードしてお申し込みください。
- ・『音楽表現学』への投稿や大会での発表の申込みには本会会員であることが条件です。手続きには時間がかかります。次年度の大会発表希望者、『音楽表現学』投稿希望者は、2020年12月15日までに会員資格を取得してください。
- ・学会からの連絡(印刷物お届けなど)は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。
- ・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

[入会申込書フォーム]

<b>入 会 申 込 書</b>	
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。	
年 月 日	
氏名 (ふりがな) :	_____
専門分野 :	_____
所 属 :	_____
自宅住所 :	〒 _____
連絡先 : (上記と異なる場合) 〒	_____
連絡先 Tel. :	_____
e-mail :	_____
推薦者名 (学会員・1名)	_____

8. 退会手続きについて

退会には以下の3点の手続きが必要です。

- ① 「退会願」をHPからダウンロードし、事務局に提出
- ② その年度までの年会費完納
- ③ 理事会の承認

「退会願」を提出しないで、年会費を先延ばしにしていると「会則第8条」によって除名処分になります。仕事や私的な理由で残念ながら学会員を「これ以上続けることができない」と判断された場合には、必要な手続きを行ってください。

[退会願フォーム]

<b>退 会 願</b>	
年 月 日	
日本音楽表現学会 会長 小西 潤子 様	
このたび、日本音楽表現学会を退会したいので「退会願」を提出いたします。 なお、今年度分までの会費は納入済みですのでご確認をお願いいたします。	
氏 名 :	_____
連絡先 :	_____
連絡先 Tel. :	_____
e-mail :	_____
退会理由 :	_____

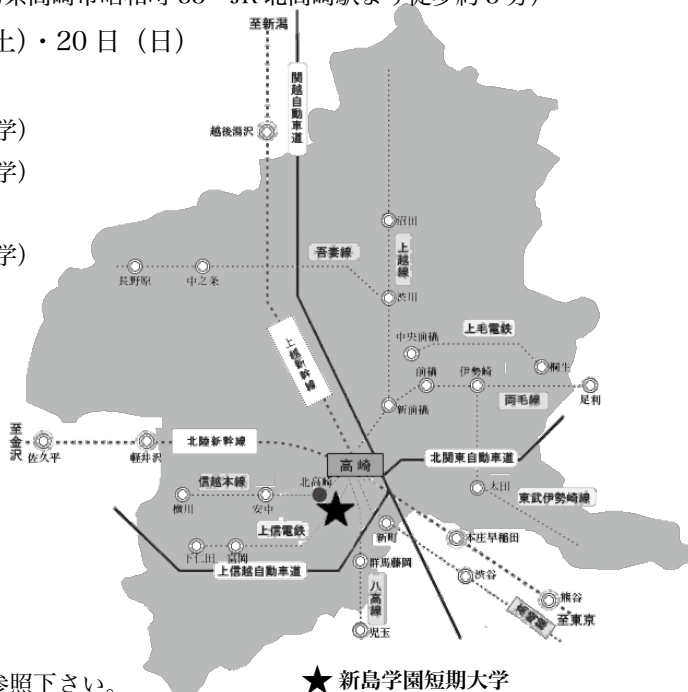


# 日本音楽表現学会第19回（天翔るペガサス）大会のご案内

会 場：新島学園短期大学（群馬県高崎市昭和町53 JR北高崎駅より徒歩約3分）

会 期：2021年6月19日（土）・20日（日）

実行委員会 委員長：吉田 秀文（群馬大学）  
 事務局長：澤田まゆみ（新島学園短期大学）  
 委員：瓜生 郷子（新島学園短期大学）  
 金山茉莉花（奈良保育学院）  
 久保田和子（新島学園短期大学）  
 渋谷ナタリ（東京藝術大学）  
 高木麻衣子（東京福祉大学）  
 林 千草（育英短期大学）  
 原 久美子（東京福祉大学）



## 会場への主なアクセス：

- ① 出発 / 中継地：首都圏方面、北陸方面共に  
JR上越・北陸新幹線「高崎」下車
- ② JR「高崎」からJR信越本線「北高崎駅」下車
- ③ 北高崎駅北口から 徒歩約3分

詳しくは「第18回（ペガサス）大会チラシ」をご参照下さい。

★新島学園短期大学

【天翔るペガサス】コロナ禍で変則的な開催となった第18回（ペガサス）大会、第19回大会ではフルヴァージョンで天空を音楽表現の喜びで充たしたいと願っています。

## 2020年度役員・委員等一覧

<p>会 長：小西 潤子                      副 会 長：山名 敏之 藤原 嘉文                      事 務 局 長：小野 亮祐                      財 務 局 長：渡会 純一                      理 事：杉江 淑子（事務局担当）                      上山 典子（財務局担当）                      澤田まゆみ（総務担当）                      寺内 大輔（総務担当）</p> <p>編集委員会：                      委員長 水戸 博道                      副委員長 渡辺 修身                      委員 大竹 紀子 豊田 典子                      中 磯子 長谷川正規                      三島 郁 宮本賢二郎</p>	<p>著作権ワーキング：                      代表 福本 康之                      委員 近藤 晶子                      酒井 勇也                      高橋 豊                      中村 滋延</p> <p>選挙管理委員会：                      委員長 樫下 達也                      委員 大澤 智恵                      田邊健太郎</p> <p>監事：                      海津 幸子                      小川 有紀</p>	<p>会長諮問会議：安藤 政輝                      佐々木正利                      後藤 丹</p> <p>参与： 中村 隆夫                      安田 香</p> <p>参事：（事務局）近藤 晶子                      中村 公俊                      長山 弘                      似内裕美子                      松井 萌</p> <p>デザイン室長：奥 忍                      （スタッフ）：海野万希子</p>
--	---	--

## 編集後記

コロナ禍による様々な苦難をのりこえ、6月の書面とオンラインによる総会を経て、いよいよ新体制で2020年度の活動が始まりました。本来なら「東京オリンピック2020」に沸く中で第18回（ペガサス）大会の報告とともに発行となる本紙でしたが、小西新会長の巻頭言や事務局長の随想、任期を終えられた役員の方々のお言葉によって、会員のみなさまが本学会への想いを深めてくださることを願っております。大変な数か月が過ぎましたが、日頃考えていらっしやることや、「新たな日常」のもとでのご活動など、皆様からのご投稿や情報をお寄せいただき、更に充実した誌面づくりにご協力いただけましたら幸いです。

（澤田まゆみ）